

塩竈学シンポジウム

平成 28 年度 「政宗が育んだ“伊達”な文化」日本遺産認定記念シンポジウム

期日 平成 29 年 3 月 20 日（月曜日・春分の日）

場所 仙台国際センター

主催 「“伊達”な文化」魅力発信推進事業実行委員会

（塩竈市教育委員会生涯学習課、塩竈市産業環境部観光交流課が実行委員の一員）

共催 宮城県、仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町

申込者数 820 名

内容 日本遺産認定を PR し、地域活性化と観光振興に役立たせるため、文化財の紹介、トークショーやパネルディスカッションを行った。

文化財の紹介 宮城県指定無形民俗文化財 大沢の田植踊（大沢田植踊保存会）

「政宗が育んだ“伊達”な文化」ストーリー紹介

トークショー

出演者 佐藤憲一（元仙台市博物館長）

村上新悟（俳優、2016 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」直江兼続役）

小日向えり（タレント、「歴史好きアイドル」）

山田晃弘（宮城県教育庁文化財保護課長）

パネルディスカッション

パネラー 高橋仁（宮城県教育委員会教育長）

大越裕光（仙台市教育委員会教育長）

佐藤昭（塩竈市長）

菊地健次郎（多賀城市長）

桜井公一（松島町長）

黒田尚嗣（クラブツーリズムテーマ旅行部顧問）

村上新悟（俳優、2016 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」直江兼続役）

小日向えり（タレント、「歴史好きアイドル」）

コーディネーター 本田勝之助（日本遺産プロデューサー）



パネルディスカッションでは、鹽竈神社の門前町である港町塩竈が、仙台藩とのかかわりの中で発展した歴史や、次世代へ継承するための取組を、市長が紹介するとともに、塩竈の魅力 PR しました。「“伊達”な文化」を一言でいうと「3C」斬新 crazy、粋 cute、創造 creation であるとコーディネーターがまとめました。

平成 25 年度 「まちに生きるアート まちと生きるアート」

期日 平成 26 年 3 月 22 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

内容 アートが人々の意識を感化し、新たな交流を生み出し、地域に活力と存在感を与えている事例を紹介し、まちとアートとの関係を考える機会としました。

基調講演 宮本武典氏（東北芸術工科大学准教授・主任学芸員）

パネルディスカッション

パネラー 杉村豊氏（染色家・杉村惇画伯ご子息）

齋藤しずえ氏（菅野美術館学芸員）

高田彩氏（ビルド・フルーガス代表）

助言者 宮本武典氏

コーディネーター 渡辺誠一郎氏

平成 24 年度 「災害の歴史に学ぶ」

期日 平成 24 年 12 月 8 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 46 名

内容 東日本大震災の被害を検証し、塩竈の古代、近世、現代でどのような災害があったのかを捉え、その後の復興や、塩竈のまちの歴史を学ぶとともに、これからのまちづくりを考えるために、まちの本質、特色、持ち味を探る機会としました。

基調講演 「三陸津波の歴史から学ぶ」

川島秀一氏（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科特任教授）

パネルディスカッション

パネラー 齋藤善之氏（東北学院大学経営学部教授）

酒井朋子氏（東北学院大学教養学部言語文化学科講師）

高橋守克氏（塩竈市文化財保護委員会会長）

平成 23 年度 「『奥鹽地名集』と地誌の時代」

期日 平成 24 年 2 月 18 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 140 名

内容 寛政時代に書かれた『奥鹽地名集』は、江戸時代後期の塩竈の姿を伝える貴重な地誌です。当時、日本中で多くの地誌が作られ、地誌ブームと言われる現象が occurred。地誌の歴史の中で、『奥鹽地名集』はどの位置づけられているのか、どのような特色があるのかを捉え、江戸時代の塩竈のまちの姿を浮き彫りにしました。塩竈のまちの歴史を学ぶとともに、これからのまちづくりを考えました。

基調講演 「『奥鹽地名集』と地誌の時代」 齋藤善之氏（東北学院大学経営学部教授）

対談 菊地勇夫氏（宮城学院女子大学教授）、齋藤善之氏

聞き手 渡辺誠一郎（塩竈市教育委員会）

平成 22 年度 「塩竈の歴史的建造物～その保存と活用」

期日 平成 23 年 2 月 20 日（日曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 120 名

内容 市内の歴史的な建築物遺産の活用についての方策を考えることにより、地域に残る貴重な歴史的建造物を活かすための取り組みをどのようにできるかを考える機会としました。

基調報告 「歴史を担う人づくり、まちづくりー大学と地域をつなぐアートの世界」

宮本武典氏（東北芸術工科大学講師・同美術館大学センター主任学芸員）

報告 「資産として活かし、文化として生かす『登録有形文化財制度』」

関口重樹氏（宮城県教育庁文化財保護課保存活用班技術主査）

報告 「『NPO みなとしおがま』の歴史的建造物における活動について」

高橋幸三郎氏（NPO みなとしおがま理事）

平成 21 年度 塩竈神楽 塩竈市無形民俗文化財指定記念

「民俗芸能の明日を考える集い～民俗芸能上演会～」

期日 平成 22 年 3 月 28 日（日曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 220 名

内容 塩竈神楽などの上演会を通して文化財としての塩竈神楽を周知するとともに、地域における民俗芸能の歴史とその明日について考える機会とします。

基調報告 「塩竈神楽について」 笠原信男氏（東北歴史博物館上席主任研究員）

記念上演会 青麻神楽「種蒔舞」、大曲浜獅子舞「内囃子ほか」

塩竈神楽「種播舞」「親子獅子」

塩竈学トーク「地域における民俗芸能の明日について」

佐々木勝則氏（塩竈神楽保存会顧問）、鈴木朝博氏（塩竈神楽保存会長）

遠藤辰夫氏（青麻神楽保存会指南役）、相澤宏智氏（大曲浜獅子舞保存会常務理事）

高橋守克氏（塩竈市文化財保存会長）、茂木裕樹氏（塩竈神社博物館学芸員）

笠原信男氏（東北歴史博物館上席主任研究員）

司会 渡辺誠一郎（塩竈市教育委員会教育部長）

平成 20 年度 「千賀の浦の魅力～その景観を未来に引き継ぐために～」

期日 平成 21 年 3 月 29 日（日曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 60 名

内容 古から独特の景観を有し、来訪者に感動を与えてきた文人墨客あこがれの地「千賀の浦」をテーマとして、この地にもので培われた塩竈の文化や歴史的な経緯を踏まえ、今後どのように景観を守っていくかを考える機会としました。

第一部 基調講演「千賀浦の魅力」藤沼邦彦氏（元弘前大学人文学部教授）

第二部 講演「千賀浦を取り巻く文化的遺産」

高橋守克氏（多賀城市立山王小学校長、塩竈市文化財保護委員会副会長）

第三部 「千賀浦の景観を未来へ引き継ぐために」藤沼邦彦氏、高橋守克氏

平成 19 年度 「人々の暮らしと民俗芸能」

期日 平成 20 年 3 月 15 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 80 名

内容 人々の暮らしと信仰の姿や塩竈の伝統的な民俗芸能、塩竈神楽の演舞を通して、塩竈の人々の暮らしと民俗芸能との関わりについて考える機会としました。

第一部 基調講演「塩竈の民俗芸能」千葉雄一氏（民俗芸能研究家）

演舞 「神招舞」「親子獅子」塩竈神楽保存会

第二部 講演「神仏習合と芸能－宮城県の民俗芸能を例に」

小谷竜介氏（東北歴史博物館学芸員）

塩竈学トーク「ふるさと文化を次世代につなぐ」

千葉雄一氏、小谷竜介氏

佐々木勝則氏（塩竈神楽保存会長）、斉藤三男氏（塩竈神楽保存会顧問）

平成 18 年度 「多賀の国府・平泉・鹽竈神社」

期日 平成 19 年 3 月 24 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 120 名

内容 陸奥国の中心地であった古代多賀城、中世多賀国府・平泉と鹽竈神社との関わりについて考える機会としました。

第一部 基調講演「多賀城から平泉へ」工藤雅樹氏（東北歴史博物館長）

第二部 「遺跡から見る多賀国府」田中則和氏（仙台市富沢遺跡保存館長）

「鹽竈神社の御由緒と古文書」近藤優氏（鹽竈神社禰宜）

「塩竈と多賀国府」七海雅人氏（東北学院大学文学部助教授）

平成 17 年度 「塩竈の伝統建築と町並みを考える－伝統建築調査報告会－」

期日 平成 17 年 6 月 25 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 100 名

内容 門前町・港町としての時代を反映した町並みは市民の誇りであり、それらの景観を守り、愛し、次世代へ継承していくためにそれぞれの立場で考える機会としました。

報告①「古絵図・古写真にみる塩竈の町並風景」

斎藤善之氏（東北学院大学経済学部助教授）

報告②「港町塩竈の建築と街並」榎本悟氏（千葉大学大学院）

報告③「亀井邸－洋館と和館」横内浩史氏（千葉大学大学院）

報告④「家具と室内意匠」児島由美子氏（千葉大学大学院）

コメント「調査結果から見えてきたもの」玉井哲雄氏（千葉大学大学院）

シンポジウム「塩竈の伝統建築の保存をめぐる」

パネラー 玉井哲雄氏、玉井研究室調査チーム

進行 斎藤善之氏

パネル展 「江戸時代の塩竈のすがた」NPO みなとしほがま

平成 16 年度 「中世の太平洋海運と塩竈」

期日 平成 16 年 8 月 28 日（土曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 100 名

内容 基調講演「北太平洋海運と港湾都市塩竈」市村高男氏（高知大学教育学部教授）
塩竈学トーキング「中世の太平洋海運と塩竈」市村高男氏、入間田宣男氏（東北大学東北アジア研究センター教授）、斎藤善之氏（東北学院大学経済学部教授）

平成 15 年度 「鹽竈神社と港町塩竈の歴史」

期日 平成 15 年 7 月 6 日（日曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 100 名

内容 港町としての塩竈とそれを取り巻く地域との関係を復元し、中世・近世の塩竈を知る機会としました。

第一部

基調報告①「中世の鹽竈神社と港町塩竈」

大石直正氏（東北学院大学文学部教授）

基調報告②「仙台藩の肴の路と塩竈港町ー地域市場と江戸市場ー」

斎藤善之氏（東北学院大学経済学部助教授）

コメント「江戸の塩干肴問屋と仕入場」

吉田伸之氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

第二部 塩竈学トーキング「塩竈学鼎談」

パネル展 「空からの塩竈、塩竈港の歴史」、「塩釜まちづくり研究所 塩釜学部の活動」、「各地の地元学の紹介（宮崎町食の文化祭）」、「塩竈学関連資料」

平成 14 年度 「海が生きるまちをもっと知ろう」

期日 平成 14 年 6 月 23 日（日曜日）

場所 ふれあいエスプ塩竈エスプホール

参加者 80 名

内容 塩竈のまちを調べて、より深く知り、塩竈の足元を見直す機会としました。

地域学「塩竈学」に寄せて 斎藤善之氏（東北学院大学経済学部助教授）

基調講演「リアスの海辺から」畠山重篤氏（牡蠣の森を慕う会代表）

塩竈学トーキング「海・ひと・まち」

平成 13 年度 「塩竈学事始め講演会～地域学へのいざない～」

期日 平成 14 年 3 月 16 日（土曜日）

内容 塩竈学の構築のために講演会を実施しました。

講師 米地文夫氏（岩手県立大学教授）